愛知学院大学心身科学部紀要第11号（1–9）（2015）

# 運動部のマネージャーの性格が選手のモチベーションに及ぼす影響
## ――大学の運動部を対象とした調査――

伴　真莉乃*1)　高木浩人*2)

本研究の目的は，大学の６つの運動部から収集したデータに基づいて，知覚されたマネージャーの性格が男性選手のモチベーションに及ぼす影響について検討することであった．有能感を統制変数とした重回帰分析の結果，知覚されたマネージャーの性格が男性選手のモチベーション（努力志向，研究心，勝利追求）を有意に説明していた．さらにマネージャーの影響はマネージャーの性別によって異なっていた．つまり，男性マネージャーの性格は努力志向と研究心を有意に説明し，女性マネージャーの性格は勝利追求を有意に説明していた．今後の研究への含意が議論された．

キーワード：性格，スポーツモチベーション，スポーツ選手，大学運動部

スポーツ選手や運動部に所属する学生は，監督，コーチ，顧問の先生，先輩や同期，後輩など様々な人からの影響を受けていると考えられる．また，このような他者という外部からの影響だけでなく，自分自身という内的なものからの影響も受けていると考えられる．選手が影響を受ける側面としては，練習に効率よく取り組み円滑に進めているかなど練習の効率性，自ら意欲的に練習に参加することができているかなど選手のモチベーション，部活全体や個人の試合成績などが挙げられる．このように，いくつかのものが挙げられるが，今回の調査では，選手のモチベーションに焦点を当てたい．

モチベーションとは，日常においてやる気，動機づけという意味で使われている．「動機づけは，学校や大学，職場，スポーツのような達成的な状況で，人々が目標に向かって励み，そこに到達しようとする際の，複雑な過程を説明しようとする多くの理論の中核である」（Hagger & Chatzisarantis, 2005（湯川・泊・大石訳, 2007, p. 105））．

ここで，スポーツにおけるモチベーションは，試合で勝つことや設定した目標を達成・成功させるためにも必要不可欠なものであると考えられる．それと同時に，達成・成功させるための日頃の練習やトレーニングの継続，集中ということにおいても重要になってくるのではないかと思われる．これまでのスポーツ選手のモチベーションについては，監督やコーチなどからの指導がモチベーションに及ぼす影響に関する研究などがみられる（植田・高野, 2001; 松井, 2014）．監督やコーチという立場は，技術指導，課題や目標達成のためのアドバイス，精神面における助言など比較的直接選手と密接に関わっている．

植田・高野（2001）では，選手のモチベーションとコーチの指導の方法，役割の関連についての研究結果が示されている．この研究では，学生アスリートのモチベーションを「内側から湧き起こるモチベーション」と「外からの働きによって起こるモチベーション」の２種類に分類している．そして，それぞれにおいてコーチは選手に対して競技そのものの価値を見出す働きかけや選手との良好な人間関係の構築が必要であるという結果がみられた．また松井（2014）では，高校の運動部活動において，称賛・励ましなどの指導者のフィードバックが生徒のモチベーションに与える影響は指導者と生徒の人間関係によって異なることが示された．

今回の調査では，選手のモチベーションに影響を与える要因としてマネージャーに注目する．マネージャ

＊１）愛知学院大学大学院 心身科学研究科心理学専攻　博士前期課程
＊２）愛知学院大学心身科学部心理学科
（連絡先）〒470–0195 愛知県日進市岩崎町阿良池12　E-mail: marino.ban.29@gmail.com

ーは，部活動においてドリンク作り，タイマー，用具の準備・片付け，試合結果の記録，ユニホームの洗濯，ケガの手当て，声かけ，試合前後の励ましなどをこなす役割を担っている．このことから，監督，コーチ，先輩や同期，後輩などとは異なり，部活動においてサポーターとしての役割を担っている立場である．

このように，競技に関して選手との直接的な関わりの少ない立場のマネージャーであるが，多くの運動部においてマネージャーは存在する．監督やコーチのような直接的な関わりは少なくはあるが，日々選手のために部活で活動するマネージャーも選手のモチベーションに何らかの影響を与えているのではないだろうか．選手のモチベーションに影響を及ぼす要因としてマネージャーを取り上げることは今後，部活で活動するマネージャーの存在意義や活動意義を確認することにつながるであろう．このことはマネージャーとして活動する人にも運動選手のモチベーションの研究者にとっても有意義なものになるであろう．そこで本研究では，マネージャーの特性がどのように選手のモチベーションに影響しているのかについて調査する．なお，マネージャーの特性として性格特性，役割を取り上げる．運動部のマネージャーの役割に関しては，髙橋・仁藤（2000）が扱っているが，選手のモチベーションとの関連については検討されていない．また，この研究は大学硬式野球部のみを対象としており，今回の調査ではさまざまな部活動を対象に選手のモチベーションとの関連について検討する．また，マネージャーの性格特性と役割が選手のモチベーションに対してどの程度の説明力を有しているか検討するために，選手のモチベーションと強く関わると予想される選手の自己有能感を統制変数として取り上げる．

## 方　法

### 調査対象

愛知県の私立大学の運動部に在籍する学生158名（男性145名，女性13名）であった．いずれの運動部にもマネージャーが所属している．学年は1年生39名，2年生42名，3年生52名，4年生25名であった．部活動については，日本拳法（17名），サッカー（30名），アメリカンフットボール（32名），ラクロス（12名），少林寺拳法（23名），陸上（44名）の6つの運動部を対象とした．

### 質問紙の構成

表紙で性別，学年，部活名，マネージャーの性別について尋ねた．2ページ以降でマネージャーの性格特性，マネージャーの役割，自己有能感，モチベーションを測定した．所属する部活にマネージャーが複数いた場合，その中から1人を思い浮かべさせて回答を求めた．

マネージャーの性格特性：マネージャーの性格特性を測定するために，Big Five尺度（和田，1996）の特徴を検討し開発されたBig Five尺度短縮版（並川・谷・脇田・熊谷・中根・野口，2012）から「外向性」，「誠実性」，「情緒不安定性」，「開放性」，「調和性」の5つの因子の29項目を使用した．外向性については，「無口な（逆転）」，「社交的」，「話し好き」などの5項目で尋ねた．誠実性については，「いい加減な（逆転）」，「ルーズな（逆転）」，「成り行きまかせ（逆転）」などの7項目で尋ねた．情緒不安定性については，「不安になりやすい」，「心配性」，「弱気になる」などの5項目で尋ねた．開放性については，「多才の」，「進歩的」，「独創的な」などの6項目で尋ねた．調和性については，「短気（逆転）」，「怒りっぽい（逆転）」，「温和な」などの6項目で尋ねた．なお，回答は全て「1：当てはまらない」～「5：当てはまる」の5段階で求めた．

マネージャーの役割：マネージャーの役割を測定するために，普段の著者自らのマネージャーの活動に基づいてオリジナルの質問項目を作成した．「精神面的役割」，「事務的役割」，「運営面的役割」の3つを設定し，16項目を作成した．精神面的役割については，「練習時に笑顔でいることが多い」，「ケガをしたときに心配する」，「試合の前に声をかける」などの5項目で尋ねた．事務的役割については，「ドリンクを作る」，「タイマーで時間をはかる」，「用具の準備・片付けをする」などの6項目で尋ねた．運営面的役割については，「練習メニューを考える」，「技術面で指導する」，「団体メンバー等の選手の決定に加わる」などの5項目で尋ねた．なお，回答は全て「1：当てはまらない」～「5：当てはまる」の5段階で求めた．

自己有能感：選手の自己有能感を測定するために，藤島・沼崎・工藤（2003）の日本語版自己好意・自己有能感尺度から自己有能感尺度の10項目を使用した．「私には才能があり，多くの可能性がある」，「私にはあまり成し遂げてきたことがない（逆転）」，「私はこれまでの人生で成功してきた」などの10項目で尋ねた．なお，回答は「1：当てはまらない」～「5：当てはまる」の5段階で求めた．

モチベーション：モチベーションを測定するために，金井（2001）の競技意欲検査から本調査における選手のモチベーションに関わると考えられる「努力志向性」，「研究心」，「勝利追求」の3つの因子を測定する15項目を使用した．努力志向性については，「新しい技術を与えられたら，それをマスターするまで努力を続ける」，「一つのことがうまくいかないとき，それをやめてほかのことをするより，それができるまで努力し続ける」，「目標を立てたら，途中であきらめることなく最後まで努力できる」などの5項目で尋ねた．研究心については，「競技やスポーツの本を読むのが好きである」，「偉大なスポーツマンの伝記を読むのが好きである」，「競技についての話を聞くのが好きである」などの5項目で尋ねた．勝利追求については，「スポーツは，勝つことが最大の目標である」，「スポーツは楽しむことより勝つことに意義がある」，「みんなで楽しむスポーツよりも，勝敗の明白なスポーツの方がやる意欲がわく」などの5項目で尋ねた．なお，回答は全て「1：当てはまらない」～「5：当てはまる」の5段階で求めた．

### 手続き

2014年10月，愛知県の私立大学の運動部の学生を対象に質問紙への回答を求めた．質問紙については，6つの運動部ごとで調査を行ってもらい，後日それぞれ回収した．

## 結　果

### 分析対象

信頼性分析では全回答者の158名を対象としたが，女子選手が少なかったのでそれ以降の分析では除外することとし，男子選手の回答者145名のみを対象とした．

### 信頼性分析

マネージャーの性格特性の尺度について信頼性分析を行い，各尺度についてCronbachの$\alpha$係数を算出した．その結果，マネージャーの性格特性の外向性は$\alpha$=.827，誠実性は$\alpha$=.802，情緒不安定性は$\alpha$=.871，開放性は$\alpha$=.778，調和性は$\alpha$=.767が得られた．各項目の評定値を平均して「外向性」，「誠実性」，「情緒不安定性」，「開放性」，「調和性」の得点とした．

マネージャーの役割の尺度について信頼性分析を行い，各尺度についてCronbachの$\alpha$係数を算出した．その結果，マネージャーの役割の精神面的役割は$\alpha$=.816，事務的役割は$\alpha$=.733，運営面的役割は$\alpha$=.800が得られた．各項目の評定値を平均して「精神面的役割」，「事務的役割」，「運営面的役割」の得点とした．

選手の自己有能感はCronbachの$\alpha$=.833が得られた．項目の評定値を平均して「自己有能感」の得点とした．

選手のモチベーションの尺度について信頼性分析を行い，各尺度についてCronbachの$\alpha$係数を算出した．その結果，選手のモチベーションの努力志向性は$\alpha$=.849，研究心は$\alpha$=.809，勝利追求は$\alpha$=.856が得られた．各項目の評定値を平均して「努力志向性」，「研究心」，「勝利追求」の得点とした．

### 相関分析

各変数間の関連について検討するために，相関分析を行った（Table 1）．

まず，自己有能感と選手のモチベーションとの関連に注目すると，努力志向性，研究心，勝利追求の全てにおいて有意な正の相関がみられた（順に，$r$=.434, $p$<.01; $r$=.327, $p$<.01; $r$=.212, $p$<.05）．このことは，有能感を統制変数として取り上げたことの適切さを示している．次に，マネージャーの特性と選手のモチベーションとの関連に注目すると，マネージャーの誠実性と努力志向性，研究心との間に有意な負の相関がみられた（順に，$r$=–.200, $p$<.05; $r$=–.182, $p$<.05）．また，マネージャーの開放性と勝利追求との間に有意な正の相関がみられた（$r$=.200, $p$<.05）．

### 階層的重回帰分析：全体

選手のモチベーションとマネージャーの性格特性，役割との関係を検討するため，階層的重回帰分析（強制投入法）を行った．目的変数として努力志向性，研究心，勝利追求を，説明変数としてStep 1で選手の自己有能感，Step 2でマネージャーの性格特性を投入した．その結果を示したのがTable 2である．なお，マネージャーの役割に関しては，いずれの目的変数についても有意な結果が得られなかったため，説明変数から除外した結果について述べる．

努力志向性を目的変数とした場合，Step 1では$R^2$=.175（$F$(1,130)=27.605, $p$<.001）と有意になり，自己有能感が有意な正の関連（$\beta$=.419, $p$<.001）を示していた．Step 2では$R^2$=.249（$F$(6,125)=6.909, $p$<.001）と有意になり，自己有能感が有意な正の関連（$\beta$=.446, $p$<.001）を示し，マネージャーの誠実性が有意な負の

Table 1　変数間の相関係数と信頼性係数

| | 外向性 | 誠実性 | 情緒不安定性 | 開放性 | 調和性 | 精神面的役割 | 事務的役割 | 運営面的役割 | 自己有能感 | 努力志向性 | 研究心 | 勝利追求 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 性格 | | | | | | | | | | | | |
| 外向性 | α=.827 | .308** | −.099 | .295** | .463** | .370** | .186* | −.015 | −.150 | −.015 | −.041 | −.007 |
| 誠実性 | | α=.802 | −.095 | .173* | .494** | .362** | .129 | −.151 | −.111 | −.200* | −.182* | −.157 |
| 情緒不安定性 | | | α=.871 | −.108 | −.092 | .103 | .149 | .094 | −.108 | .120 | .129 | −.146 |
| 開放性 | | | | α=.778 | .190* | .231** | −.001 | .201* | .109 | .042 | .136 | .200* |
| 調和性 | | | | | α=.767 | .398** | .288** | −.082 | −.168* | −.102 | −.077 | .018 |
| 役割 | | | | | | | | | | | | |
| 精神面的役割 | | | | | | α=.816 | .492** | .092 | −.047 | .029 | .072 | −.002 |
| 事務的役割 | | | | | | | α=.733 | .112 | −.108 | .151 | .134 | .073 |
| 運営面的役割 | | | | | | | | α=.800 | −.115 | .003 | .124 | .117 |
| 自己有能感 | | | | | | | | | α=.833 | .434** | .327** | .212* |
| モチベーション | | | | | | | | | | | | |
| 努力志向性 | | | | | | | | | | α=.849 | .644** | .522** |
| 研究心 | | | | | | | | | | | α=.809 | .354** |
| 勝利追求 | | | | | | | | | | | | α=.856 |

*$p$<.05, **$p$<.01

Table 2　努力志向性，研究心，勝利追求を目的変数とした階層的重回帰分析：全体

| | 努力志向性 | | 研究心 | | 勝利追求 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | Step 1 β | Step 2 β | Step 1 β | Step 2 β | Step 1 β | Step 2 β |
| Step 1 | | | | | | |
| 自己有能感 | .419*** | .446*** | .315*** | .325*** | .229** | .186* |
| Step 2 | | | | | | |
| 外向性 | | .122 | | .070 | | −.048 |
| 誠実性 | | −.194* | | −.178 | | −.287** |
| 情緒不安定性 | | .200* | | .211* | | −.079 |
| 開放性 | | .007 | | .122 | | .181* |
| 調和性 | | .051 | | .057 | | .134 |
| $R^2$ | .175*** | .249*** | .100*** | .177*** | .052** | .146** |
| 自由度調整済み $R^2$ | .169 | .213 | .093 | .137 | .045 | .104 |
| $\Delta R^2$ | | .074* | | .077* | | .094* |

*$p$<.05, **$p$<.01, ***$p$<.001

関連（$\beta$=−.194, $p$<.05），情緒不安定性が有意な正の関連（$\beta$=.200, $p$<.05）を示していた．また，$\Delta R^2$は.074で有意であった（$p$<.05）．このことから選手の努力志向性について，マネージャーの性格特性が選手の自己有能感とは独立に説明力を有していることがわかった．

研究心を目的変数とした場合，Step 1では$R^2$=.100（$F$(1,130)=14.370, $p$<.001）と有意になり，自己有能感が有意な正の関連（$\beta$=.315, $p$<.001）を示していた．Step 2では$R^2$=.177（$F$(6,125)=4.477, $p$<.001）と有意になり，自己有能感が有意な正の関連（$\beta$=.325, $p$<.001）を示し，マネージャーの情緒不安定性が有意な正の関連（$\beta$=.211, $p$<.05）を示していた．また，$\Delta R^2$は.077で有意であった（$p$<.05）．このことから選手の研究心について，マネージャーの性格特性が選手の自己有能感とは独立に説明力を有していることがわかった．

勝利追求を目的変数とした場合，Step 1では$R^2$=.052（$F$(1,128)=7.078, $p$<.01）と有意になり，自己有能感が有意な正の関連（$\beta$=.229, $p$<.01）を示していた．Step 2では$R^2$=.146（$F$(6,123)=3.508, $p$<.01）と有

意になり，自己有能感が有意な正の関連（$\beta$=.186, $p$<.05）を示し，マネージャーの誠実性が有意な負の関連（$\beta$=−.287, $p$<.01），マネージャーの開放性が有意な正の関連（$\beta$=.181, $p$<.05）を示していた．また，$\Delta R^2$は.094で有意であった（$p$<.05）．このことから選手の勝利追求について，マネージャーの性格特性が選手の自己有能感とは独立に説明力を有していることがわかった．

以上より，選手のモチベーションの全ての要素において，マネージャーの性格が選手の自己有能感とは独立に説明力を有していることがわかった．では，マネージャーの性別によってどのような違いがみられるのだろうか．以下では男子マネージャー（N=30, アメリカンフットボール部，少林寺拳法部），女子マネージャー（N=115, 日本拳法部，サッカー部，アメリカンフットボール部，ラクロス部，少林寺拳法部，陸上部）ごとに同様の階層的重回帰分析を行った．

### 階層的重回帰分析：男子マネージャー

目的変数として選手のモチベーションの努力志向性，研究心，勝利追求を，説明変数としてStep 1で自己有能感，Step 2でマネージャーの性格特性を投入した．その結果を示したのがTable 3である．

努力志向性を目的変数とした場合，Step 1では$R^2$=.087（$F$(1,26)=2.481, *n.s.*）と有意ではなかった．Step 2では$R^2$=.559（$F$(6,21)=4.435, $p$<.01）と有意になり，マネージャーの誠実性が有意な負の関連（$\beta$=−.523, $p$<.01），マネージャーの情緒不安定性が有意な正の関連（$\beta$=.622, $p$<.01）を示していた．また，$\Delta R^2$は.472で有意であった（$p$<.01）．このことから選手の努力志向性について，男子マネージャーの性格特性は選手の自己有能感とは独立に説明力を有していることがわかった．

研究心を目的変数とした場合，Step 1では$R^2$=.141（$F$(1,26)=4.284, $p$<.05）と有意になり，自己有能感が有意な正の関連（$\beta$=.376, $p$<.05）を示していた．Step 2では$R^2$=.515（$F$(6,21)=3.719, $p$<.05）と有意になり，マネージャーの誠実性が有意な負の関連（$\beta$=−.552, $p$<.01），マネージャーの情緒不安定性が有意な正の関連（$\beta$=.482, $p$<.05）を示していた．また，$\Delta R^2$は.374で有意であった（$p$<.05）．このことから選手の研究心について，男子マネージャーの性格特性は選手の自己有能感とは独立に説明力を有していることがわかった．

選手の勝利追求については，Step 1，Step 2のいずれにおいても有意な$R^2$は得られなかった（Step 1 $R^2$=.047, $F$(1,26)=1.286, *n.s.*; Step 2 $R^2$=.318, $F$(6,21)=1.629, *n.s.*）．

以上より，選手のモチベーションの努力志向性，研究心については，男子マネージャーの性格が選手の自己有能感とは独立に説明力を有していることがわかった．

### 階層的重回帰分析：女子マネージャー

目的変数として選手のモチベーションの努力志向性，研究心，勝利追求を，説明変数としてStep 1で自

Table 3　努力志向性，研究心，勝利追求を目的変数とした階層的重回帰分析：男子マネージャー

| | 努力志向性 | | 研究心 | | 勝利追求 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | Step 1 $\beta$ | Step 2 $\beta$ | Step 1 $\beta$ | Step 2 $\beta$ | Step 1 $\beta$ | Step 2 $\beta$ |
| Step 1 | | | | | | |
| 自己有能感 | .295 | .263 | .376* | .290 | .217 | .186 |
| Step 2 | | | | | | |
| 外向性 | | .391 | | .202 | | .343 |
| 誠実性 | | −.523** | | −.552** | | −.381 |
| 情緒不安定性 | | .622** | | .482* | | .413 |
| 開放性 | | −.103 | | .155 | | −.147 |
| 調和性 | | .282 | | .180 | | .101 |
| $R^2$ | .087 | .559** | .141* | .515* | .047 | .318 |
| 自由度調整済み $R^2$ | .052 | .433 | .108 | .377 | .010 | .123 |
| $\Delta R^2$ | | .472** | | .374* | | .270 |

*$p$<.05, **$p$<.01

Table 4　努力志向性，研究心，勝利追求を目的変数とした階層的重回帰分析：女子マネージャー

| | 努力志向性 | | 研究心 | | 勝利追求 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | Step 1 $\beta$ | Step 2 $\beta$ | Step 1 $\beta$ | Step 2 $\beta$ | Step 1 $\beta$ | Step 2 $\beta$ |
| Step 1 | | | | | | |
| 自己有能感 | .460*** | .473*** | .309** | .357** | .241* | .128 |
| Step 2 | | | | | | |
| 外向性 | | .103 | | −.003 | | −.087 |
| 誠実性 | | −.093 | | .038 | | −.274* |
| 情緒不安定性 | | .079 | | .216* | | −.250** |
| 開放性 | | .091 | | .033 | | .294** |
| 調和性 | | .004 | | .049 | | .158 |
| $R^2$ | .211*** | .239*** | .095** | .145** | .058* | .230*** |
| 自由度調整済み $R^2$ | .204 | .192 | .087 | .092 | .049 | .182 |
| $\Delta R^2$ | | .028 | | .050 | | .172** |

*$p$<.05, **$p$<.01, ***$p$<.001

己有能感，Step 2でマネージャーの性格特性を投入した．その結果を示したのがTable 4である．

努力志向性を目的変数とした場合，Step 1では$R^2$=.211（$F$(1,102)=27.353, $p$<.001）と有意であり，自己有能感が有意な正の関連（$\beta$=.460, $p$<.001）を示していた．Step 2では$R^2$=.239（$F$(6,97)=5.083, $p$<.001）と有意であり，自己有能感が有意な正の関連（$\beta$=.473, $p$<.001）を示していた．また，$\Delta R^2$は.028で有意ではなく，このことから選手の努力志向性について，女子マネージャーの性格特性は選手の自己有能感と独立に説明力を有していないことがわかった．

研究心を目的変数とした場合，Step 1では$R^2$=.095（$F$(1,102)=10.759, $p$<.01）と有意になり，自己有能感が有意な正の関連（$\beta$=.309, $p$<.01）を示していた．Step 2では$R^2$=.145（$F$(6,97)=2.743, $p$<.05）と有意になり，自己有能感が有意な正の関連（$\beta$=.357, $p$<.01）を示し，マネージャーの情緒不安定性が有意な正の関連（$\beta$=.216, $p$<.05）を示していた．また，$\Delta R^2$は.050で有意ではなく，このことから選手の研究心について，女子マネージャーの性格特性は選手の自己有能感と独立に説明力を有していないことがわかった．

勝利追求を目的変数とした場合，Step 1では$R^2$=.058（$F$(1,100)=6.184, $p$<.05）と有意になり，自己有能感が有意な正の関連（$\beta$=.241, $p$<.05）を示していた．Step 2では$R^2$=.230（$F$(6,95)=4.741, $p$<.001）と有意になり，マネージャーの誠実性，情緒不安定性が有意な負の関連（順に$\beta$=−.274, $p$<.05; $\beta$=−.250, $p$<.01），マネージャーの開放性が有意な正の関連（$\beta$=.294, $p$<.01）を示していた．また，$\Delta R^2$は.172で有意であった（$p$<.01）．このことから選手の勝利追求について，女子マネージャーの性格特性は選手の自己有能感とは独立に説明力を有していることがわかった．

以上より，選手のモチベーションの勝利追求については，女子マネージャーの性格が選手の自己有能感とは独立に説明力を有していることがわかった．

これらの結果をまとめると，男子選手に対して選手のモチベーションのうち努力志向性，研究心については男子マネージャーの性格が選手の自己有能感とは独立に説明力を有しており，選手のモチベーションのうち勝利追求については女子マネージャーの性格が選手の自己有能感とは独立に説明力を有していることが明らかとなった．

## 考　察

### マネージャーの性格の影響

これまで選手と直接的な関わりのあるコーチや監督が選手のモチベーションに影響を及ぼすことが明らかとなっている．今回，これまで注目されなかったマネージャーの要因も選手のモチベーションに影響しているということが明らかとなった．本研究の結果から，マネージャーの性格が選手のモチベーションの全ての要素において影響を与えていることがわかった．このことから，選手のモチベーションにおいて選手を支援するマネージャーの存在を考慮する必要があるといえる．

### マネージャーの性別の影響

マネージャーの性別によって選手のモチベーションへの影響が異なることが明らかとなり，男子マネージャーの性格が選手のモチベーションの努力志向性，研究心に影響を与えていることがわかった．また，女子マネージャーの性格が選手のモチベーションの勝利追求に影響を与えていることがわかった．この違いについて解釈するには，マネージャーとなった経緯の性差について考慮することが有効であろう．マネージャーとなった経緯についての性別による違いでは，女子マネージャーでは当初からマネージャーを希望している場合が多く，男子マネージャーでは元々は選手であり何らかの理由によって競技を続けることができなくなった場合が多いのではないかと考えられる．

選手のモチベーションの努力志向性，研究心については，その競技に関する書物などによる研究，日々の練習の積み重ねが挙げられる．そのため，これらについてはコツコツとこなすというどちらかと言えば地味なイメージがある．一方，選手のモチベーションの勝利追求については，試合において競技相手に勝つことで周りからの賞賛が得られる．そのため，華々しくやや派手なイメージがある．これらの点を踏まえると，男子マネージャーについては元々同じ競技を共にする選手である場合が多く，何らかの理由によって続けることが困難となったといういきさつが関連し，普段の練習や研究の努力が影響を受けるのではないだろうか．女子マネージャーについては，入部時からマネージャーとして日々選手をサポートしている場合が多く，試合で勝利し，華々しい姿をみせたいという勝利追求が影響を受けるのではないだろうか．

### マネージャーの性格特性の影響

マネージャーの個々の性格特性が選手のモチベーションに影響を与えていた．マネージャーの情緒不安定性が高いほど努力志向性，研究心も高いという結果が得られた．また，マネージャーの誠実性が低いほど努力志向性，勝利追求は高いという結果が得られた．これらの結果は意外なものであるが，以下のような解釈が可能であろう．

情緒不安定性とモチベーションの努力志向性，研究心との正の関連では，情緒不安定性が高いということはマネージャーが精神的に不安を抱きやすく，心配性であると認知されているということである．そのため，選手はマネージャーに不安や心配をかけさせてはいけないという気持ちになるのではないだろうか．このことから，マネージャーを安心させるためにも試合で勝つことの必要性を感じ，勝つために競技に対する研究や日々の練習をもっとしなければならないという気持ちが強くなるのではないかと考えられる．

誠実性とモチベーションの努力志向性，勝利追求との負の関連では，誠実性が低いということはマネージャーが成り行き任せでややいい加減な面があると認知されているということである．そのため，選手は普段の練習においてマネージャーに頼りにくく，自分たちでしっかりとやっていくしかないといった思いが芽生えるのではないだろうか．あるいは，因果関係を逆転させて考えると，普段努力している選手からはマネージャーの誠実性が低いと認知されてしまうのかもしれない．

男子マネージャーでは，マネージャーの誠実性が低いほど研究心が高いという結果が得られた．上にも述べたように，誠実性が低いということはマネージャーが成り行き任せでややいい加減な面があると認知されているということである．そのため，選手がマネージャーに頼ることは難しい状況であり，普段からより効率的・効果的な練習を行うことで良い結果を残すためには，競技に関する知識の習得が必要であると感じるのではないだろうか．

次に，女子マネージャーでは，マネージャーの情緒不安定性が低いほど勝利追求が高く，マネージャーの開放性が高いほど勝利追求が高いという結果が得られた．情緒不安定性が低いということはマネージャーが比較的情緒が安定していると認知されているということである．そのため，マネージャーの前向きで強気な姿勢・気持ちが選手に伝わることで，選手自身も安心して勝利を追求するというモチベーションにつながるのではないかと考えられる．開放性が高いということはマネージャーが進歩的，独創的であると認知されているということである．そのため，選手は心強さを感じ，試合で勝つことによって自らも一歩新たな段階へと進んでいこうという気持ちになるのではないだろうか．

### 本研究の問題点と今後の課題

今回の調査では，女子マネージャーは6つの全ての運動部に所属していた．しかし，男子マネージャーはアメリカンフットボール部，少林寺拳法部にのみ所属していた．このことから，マネージャーの性別による選手のモチベーションへの影響の違いは部活の競技の違いの影響を受けている可能性もある．また，男子マ

ネージャーの分析は，サンプル数が30と比較的少ない．次に，マネージャーの性格が選手の知覚である点を指摘することができる．今後，これらの点を考慮した研究が必要となってくる．

最後に，本研究は調査対象者として大学の運動部に所属する学生を取り上げている．今後，このような大学生以外で，実業団や日本代表などのよりハイレベルな対象を取り上げる研究も検討していくべきであろう．

## 引用文献

藤島喜嗣・沼崎誠・工藤恵理子 (2003). 日本語版自己好意／自己有能感尺度（日本語版 SLCS）の作成　日本社会心理学会第44回大会発表論文集，538–539.

Hagger, M. & Chatzisarantis, N. (2005). The social psychology of exercise and sport,1st edition. Open University Press UK Limited.（湯川進太郎・泊真児・大石千歳(訳) (2007). スポーツ心理学　エクササイズとスポーツへの社会心理学的アプローチ 北大路書房）

金井泉寿 (2001). 競技意欲検査の作成（http://atlantic.gssc.nihon-u.ac.jp/~e-magazine/010/essay-kanai.htm）最終確認2015年8月2日

松井幸太 (2014). 高校運動部活動における生徒の内発的動機づけ —指導者のフィードバック行動および生徒と指導者の関係に対する生徒の認知からの検討— スポーツ心理学研究，**41**, 51–63.

並川努・谷伊織・脇田貴文・熊谷龍一・中根愛・野口裕之 (2012). Big Five 尺度短縮版の開発と信頼性と妥当性の検討　心理学研究，**83**, 91–99.

髙橋準・仁藤幸恵 (2000). 運動部マネージャの性別職務分離：大学硬式野球部の全国調査から　福島大学行政社会学会，**12**, 83–114.

植田恭史・高野進 (2001). コーチング研究〔Ⅰ〕学生アスリートのモチベーション　東海大学体育学部体育学科，**31**, 1–6.

和田さゆり (1996). 性格特性用語を用いた Big Five 尺度の作成　心理学研究，**67**, 61–67.

## 付　記

本論文を作成するに当たって，三ツ村美沙子さん（愛知学院大学心身科学研究科博士後期課程）から貴重なご意見，ご指導を賜りました．心より感謝申し上げます．

最終版平成27年9月30日受理

Bulletin of The Faculty of Psychological & Physical Science, No. 11, 1–9, 2015

# The Effects of Perceived Personality of Managers on Motivation of Players
## —An Examination of University Sports Clubs—

Marino BAN and Hiroto TAKAGI

**Abstract**

The purpose of this study was to examine the effects of perceived personality of managers on motivation of male players based on the data collected from six university sports clubs. Regression analyses revealed that after controlling a sense of self-capability, perceived personality of managers significantly explained motivation (effort-orientation, spirit-of-inquiry, victory-pursuit) of male players. Further, the effects of personality of managers differed in accordance with sex of managers. Namely, personality of male managers significantly explained effort-orientation and spirit-of-inquiry, and personality of female managers significantly explained victory-pursuit. Implications for future research were discussed.

Keywords: personality, sports motivation, sports player, university sports club